

上賀茂神社

近藤 悠太

(2019 年度入学 鈴木ゼミ 3 期生)

京都には金閣寺・銀閣寺、清水寺などの歴史的建造物が世界遺産に認定されている。上賀茂神社も世界遺産に認定されており、賀茂祭（葵祭）など有名な祭りもある。また、上賀茂神社は京都産業大学に近く、シャトルバスも上賀茂神社からでているので、京都産業大学生になじみもあると思う。そして、上賀茂神社は私が京都に上京して初めて訪れた観光地でもあるので、一番身近に感じられるものとなっている。ここでは上賀茂神社についての歴史、上賀茂神社の境内、賀茂祭（葵祭）を紹介していきたいと思う。

上賀茂神社は、正式には「賀茂別雷神社」という。「上賀茂神社」とも呼ばれている。鴨川の上流、賀茂川のほとりに鎮座している。境内 23 万坪の大部分は歴史的風土特別保存地区であり、史跡に指定されている。しだれ桜など京都の巨樹名木に数えられる植物もある。1994 年には「古都京都の文化財」の一つとして世界遺産に登録された。御祭神は賀茂別雷大神である。『賀茂縁起』、『賀茂旧記』によると、賀茂建角身命を祖神とする賀茂県主族が現在の地域に定住し、農地を開墾した。そして、賀茂氏として相応しい守護神を祀り、恩頼を仰ごうとして、祭祀の権を与えられていた玉依比売命が、賀茂川で禊をして神の降臨を願っていたところ、川上より丹塗りの矢が流れてきて持ち帰り、偉大なる神を感得し、産まれた御子が賀茂別雷大神と伝えている。神徳は厄除、開運、雷除、必勝、電気産業守護などがある。



次に上賀茂神社の境内を見ていこうと思う。まず最初に出会うのは朱塗りの明神鳥居である。どしっとかまえており、迫力がある。明神鳥居をくぐると参道になる。清々しく続く一本道の白砂、左右には緑色の美しい芝生が生えており、奥には二の鳥居が見える位置にある。参道の東には二本の桜があり、ピンク色の桜が斎王桜、白色の桜が御所桜で、御所桜は他の桜に先駆け三月下旬に花を咲かせる。他にも二の鳥居のそばに咲く風流桜、みあれ桜な



ど様々な桜がある。白砂を進み、二の鳥居をくぐると、木々の深い緑を背景に細殿、橋殿、土屋が見える。細殿の前には円錐状の一对の白い立砂がある。細殿は重要文化財建造物で天皇などの参拝の際の著倒殿である。細殿の前の立砂は賀茂別雷大神が降



臨した「神山」をかたどり、神を招く依代の役割を果たす。橋殿は賀茂祭の祭儀において天皇に派遣された勅使が御祭文を奏上する場である。土屋は神主以下の社司の著到殿として使用されていた。現在はお祓い・物忌みなどのときに使用されている。細殿の背部にある小川を過ぎると朱塗りの橋と門が見えてくる。橋は玉橋という。高欄付きの橋で、神事で神官が渡るときのみ使用される。玉橋の前の朱塗りの門は左右に回廊をめぐるした二階建ての楼門である。本殿、権殿を背にしてたつ威風堂々とした姿の中に雅やかさをたたえている。楼門をくぐると中門があり、この奥に本殿、権殿がある。東に本殿、西の社殿が権殿で、左右対称に建っており、国宝に指定されている。本殿、権殿ともに「狩野派」により狛犬の絵「影狛」が描かれている。賀茂別雷大神はこの両社殿を行き来しながら鎮座しているといわれている。他には奈良の小川、神馬社などを含め自然、社殿があるので足を運んでみて欲しい。



次に賀茂祭（葵祭）を紹介していきたい。上賀茂神社の祭礼と言え先ず浮かぶのは葵祭（賀茂祭）だろう。平安時代には「まつり」といえば賀茂祭をさすほど有名で、枕草子、源氏物語などに登場する。葵祭は日本の三大勅祭（賀茂祭〔葵祭〕・石清水祭・春日祭）のうちの一つ。起源は約1400年前、欽明天皇の頃に遡る。風雨が続き、五穀が実らなかったため、当時賀茂の大神の崇敬者ト部伊吉若日子を勅使として祭礼を行い、駆競を行うと、風雨がおさまリ、五穀も豊かに実リ、安泰になった。この行事がルーツとされている。祭儀は宮中の



儀、路頭の儀、社頭の儀の三つからなるが、現在は路頭の儀、社頭の儀が行われている。祭の見所は路頭の儀で、勅使をはじめ、検非違使、内蔵氏、山城使、牛車、風流傘、斎王代など平安貴族そのままの姿で列を作り、京都御所を出発。総勢 500 余名、牛 4 頭、牛車 2 基、輿 1 台の王朝行列が下鴨神社へ、さらに上賀茂神社へ向かい、道のりは 8 キロにおよぶ。社頭の儀は、行列が下鴨・上賀茂両社に到着した際、それぞれ行われる儀式で、勅使が御祭文を奏上し御幣物を奉納する。さらに、御馬の牽き回し、舞人による「東遊」の舞が奉納される。路頭の儀などの注目の祭儀以外にも葵祭では 5 月 1 日に行われる賀茂競馬足汰式をはじめとして、流鏑馬神事、競馬会神事、斎王代禊の儀、など様々な前儀も行われている。上賀茂神社では葵祭以外に 1 月 7 日は白馬奏覧神事、2 月 24 日にさんやれ祭、6 月 30 日に夏越禊、9 月 9 日に烏相撲、11 月 23 日に新嘗祭、大晦日に行われる大祓式、これ以外にも新春から大晦日まで一年中様々な祭礼が行われている。

私が上賀茂神社を初めて訪れたのは大学一年時の夏の晴れた日だった。私の地元は徳島で、近くに著名な観光地はなかったので、自分が住む近くに世界遺産があることがとても新鮮だった。上賀茂神社に行けば、明神鳥居の堂々としたたたずまいに気圧され、楼門は太陽の光に照らされ、神々しさがあって感動した。日本古来の造形がそこにあり、上賀茂神社一帯だけが別の時代にあると思わせられる。私は上賀茂神社の祭礼にはまだ参加できておらず、今後参加したいと思っている。出来れば、葵祭に参加してみたい。葵祭ではアルバイトで衣装を着て行列に入ることもできる。アルバイトに参加できなくても平安貴族の姿の総勢 500 余名の趣がある行列を見ることができる。特に就活に「勝負」という思いを込めて参拝に何度も行こうと思う。最後になるが歴史、祭礼が続く、京都産業大学生になじみのあるこの上賀茂神社により多くの人に足を運んでもらいたい。歴史あるの和の文化に触れることで、素晴らしい時を過ごすことができるだろう。

参考文献

京都市公式, 2021, 「葵祭『深く知る』」京都観光 Navi (2021 年 6 月 7 日取得, <http://ja.kyoto.travel/event/major/aoi/understand.php>) .

岡野弘彦, 櫻井敏雄, 三好和義, 2004 『賀茂社「上賀茂神社・下鴨神社」』株式会社淡交社.

ローム彩時記春, 2021, 「CLOSE UP 上賀茂神社 楼門・玉橋」ROME (2021 年 6 月 9 日取得, <https://micro.rohm.com/jp/rohm-saijiki/kamigamo/closeup/closeup01.html>) .

ローム彩時記春, 2021, 「CLOSE UP 上賀茂神社 細殿・橋殿」ROME (2021 年 6 月 10 日取得, <https://micro.rohm.com/jp/rohm-saijiki/kamigamo/closeup/closeup02.html>) .

竹内光儀, 2003, 『上賀茂神社』学生社.

山本尚幸, 2003, 「上賀茂神社・下鴨神社 みやみびを伝える葵祭」『神社紀行』2003 年 5 月 15 日号.